



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

アフガニスタン：和平諮問ジルガ閉幕

(4日付現地報道取り纏め)

2日から4日までカブールにおいて開催されていた和平諮問ジルガ（ジルガとはパシュトゥー語で「会議、議会」）が閉幕した。

1. 最終声明の概要

- (1) 反対派は暴力を避け、和平の受け入れを示すべき。
- (2) 和平交渉に前提条件をつけるべきではない。
- (3) アルカーイダや他のテロ組織は、反対派との和平交渉にいかなる役割も有さない。
- (4) 米国と国際社会に対し、アフガニスタンへの支援を拡大し、アフガニスタンが自立するまで、長期的な政策を作成し、アフガニスタンに支援を行うよう求める。
- (5) 国際社会に和平諮問ジルガを支持するよう求める。
- (6) サウジアラビアとトルコを賞賛する。
- (7) 公海における「自由艦隊」に対するイスラエルの攻撃を非難し、国連に対しイスラエルによるガザ地区封鎖を終わらせるよう求める。
- (8) 外国軍とアフガニスタン国軍に民家の搜索、人々の不条理な逮捕を止めるよう求める。
- (9) 政府と外国軍に対し、誤った、未確認の情報に基づいて拘束されている人々を、善意を示すために速やかに解放するよう求める。
- (10) 和平プログラムの下、政府に加わった人々に対する安全を確保するよう求める。
- (11) 外国軍に、民家に対する空爆を厳格に避けるよう要請する。
- (12) 反対派に対して、アルカーイダや他のテロ組織との関係を断ち切るよう求める。
- (13) 政府に対し、国家の経済基盤の強化に焦点を当て、雇用機会の創出、イスラム教育の拡大を求める。
- (14) 聖職者、人々、メディアに対し平和のために活動し、平和のメッセージを広げるよう求める。
- (15) 女性と子どもの権利を擁護するために、法律の公正な執行を求める。

2. ターリバーン側の反応

- (1) 和平諮問ジルガ閉会式でのカルザイ大統領の発言後、ターリバーンのユーソフ・アフマディー報道担当は、AIP 通信に対し、ターリバーンが武器を放棄し和平プロセスに参加するよう求める和平諮問ジルガの要求を拒絶し、外国軍がアフガニスタンから撤退するまで抵抗を継続すると述べた。

(2) ユーソフ・アフマディー報道担当は、同ジルガの提案は受け入れられるものではなく、これら全ての努力は、外国軍の駐留を延長させることを目的としていると述べた。同報道担当は「同ジルガの実体は、アフガニスタン政府支持者と外国のエージェントたちの集まりである。もしジルガが本当にアフガニスタンの繁栄を考慮するのであれば、最初に外国軍の撤退から始めるべきである」と述べた。